

平成21年度認定 (No.58)

農業名人

果樹棚張り・剪定名人

ななくぼかじゅけんきゅうかい
七久保果樹研究会

昭和25年設立 飯島町

地域密着で果樹生産基盤を支える



飯島町七久保の「七久保果樹研究会」は、地区内の果樹専業農家の有志が集まり、高齢化・兼業化などで剪定作業が困難になった農家を支援するために、昭和25年に「園芸同志会」として発足した。昭和40年に「果樹研究会」に名称を変更し、現在まで継続して活動を続けてきている。農業者の高齢化が進み、梨やリンゴの生産をやめたり縮小しようとする人が出てくる中で、剪定の請負い組織があることで継続できている事例が数多くある。特に、地元七久保の梨が県内でも優秀な産地として継続されたのは、会の活動が大きく寄与している。

剪定作業は、地域からの希望をとりまとめ、1月から2月中旬の厳寒期に実施しており、6～7人が2班編成で受託先の果樹園をまわり効率的に行っている。

果樹研究会では、果樹の剪定だけでなく果樹の棚張りも手がけてきた。梨棚の設置は個別ではできないため、技術のある人の集団が不可欠であり、梨生産の基礎を支える大きな役割を担っている。地区内の梨団地をはじめ町内外の団地など20haを越える棚張りを行ってきた。

かつては剪定作業・棚張りを請け負うグループが各地にあったが、現在では町内で組織的に実施しているのは同研究会のみとなっている。メンバーは60歳代を中心に20名で活動しているが、この中には、近年Iターン、Uターンで就農した20代から40代の若手メンバーが4人新たに研究会に仲間入りした。

剪定作業は、北風と吹雪の季節の仕事であるが、うまい果物づくりの基本は適切な日照を確保するために樹形を整え、枝の量や位置を整えるために極めて重要な作業であり、園主から委託を受けての作業は、大きな責任がある作業であるが、技術力の高さから、今シーズンは地元飯島町七久保のほか、中川村や下伊那郡松川町などの25



軒のリンゴや梨の11ヘクタールほどの広大な面積を請け負っている。このような取組みを継続するためには、技術の高位維持と向上が必要であり、毎月学習会を開催して技術の研鑽・研修を重ねている。

また、研究会は、果樹農家の経営相談や技術相談にも応じている。地域から信頼される同会の活動は、そのまま地元地域の農業振興につながっている。